

会誌編集委員会

女子部

Number
37

メンタープログラムの可能性

津田塾大学 稲葉利江子

あなたは、自身の人生、特にキャリアなどを相談できる人がいますか。その人はどんな人でしょうか。こうした、相談できる人のことを「メンター」といいます。「メンター」とは、人生の良き支援者として、あらゆる悩みに対してアドバイスをするという役割を持った人です。「コーチ」という言葉が浮かんだ方もいるかもしれませんがね。コーチは、仕事など明確な目標を達成するために専門的な立場から支援を行う役割を持った人と定義されています。メンターとコーチは支援の方法、内容などが異なるものということになります。厚生労働省では、女性の社会における活躍を推進することを目的に、ポジティブ・アクション展開事業研究会にて、「メンター制度導入・ロールモデル普及マニュアル」を2012年度に作成・配布し、メンター制度を導入する企業も増えてきています。

今年（2017年）2月に、津田塾大学女性研究者支援センターでは、シンポジウム「女性研究者のリーダーシップ育成の組織的支援—情報通信技術分野の学会における活動から—」を開催しました。情報通信分野の大規模な国際学会であるIEEE（Institute of Electrical and Electronics Engineers）、ACM（Association for Computing Machinery）、CRA（Computing Research Associate）の関係者を招き、リーダーシップを持った女性研究者の育成にかかわる活動についてご講演いただくとともに、パネルディスカッションでは、本会、電子情報通信学会の関係者も加わり意見交換がなされました。本会からは、2016年度に発足した女性コミュニティ形成を目的としたInfo-WorkPlace委員会から中野美由紀先生が登壇され、Info-WorkPlace委員会の取り組みを紹介いただきました。

このシンポジウムの中で、特に印象的だったのが、「メンタープログラムの重要性」です。幸いなことに、私自身は、これまで研究所や大学をいくつか移っていますが、そのたびに、男女問わず、キャリアのこと、研

究のことを相談できる同僚や研究仲間がいたため、「メンター」ということを気にせず、過ごしてきました。しかし、環境によっては、Ph.D.を取ったばかりや研究者のスタートアップ時に、テニユアを得る方法や、研究資金の獲得方法、ワークライフバランスについて相談できる相手がおらず、不安な日々を過ごしている研究者もいるでしょう。また、中堅研究者になれば、その後のキャリアアップなどについても教えてほしいことがたくさんあるのではないのでしょうか。

シンポジウムの中で、「女性のポジションを増やすのではなく、育ててほしいところがあるのではないか」という意見もありました。今の日本では、指導的地位に女性が占める割合を30%に……という声が聞こえますが、ただポジションを増やしてもそれにアプライする女性の研究者が少ないのではないのでしょうか。女子学生をエンカレッジし、女性研究者、女性エンジニアが増えるような、次の世代に繋げていけるような組織的な支援が必要なのではないのでしょうか。その一つとして、研究のことやワークライフバランスを相談できるメンタープログラムが効果的かもしれません。キャリアについては、女性の研究者に相談した方がよい場合もあるかと思います。しかし、なかなか経験者の女性研究者と出会う機会がない方もいらっしゃるでしょう。一方、研究に関する相談であれば、男女問わず有益なアドバイスを得ることができるのではないのでしょうか。IEEEは、リタイアされたシニア研究者に論文の添削やプレゼンテーション指導をするプログラムを計画しているようです。このように、女性研究者同士のネットワーク形成による出会いの場作りやシニア世代とのマッチングなど、次世代の研究者を育てていくサポートプログラムが学会にできると、研究者の社会においてもダイバシティが広がっていくのではないのでしょうか。